

編集後記

この第23号もこれまでと同様に名古屋大学附属図書館のレポジトリに登録されるとともに、技術教育学研究室（横山研究室）のHPに掲載される。研究室のHPには、室報全体をPDF化したものを掲載している。HPのアドレスは以下の通りである。

http://gi.jyutukyoiikugaku.blogspot.com/p/blog-page_58.html

本号では、社会人大学院生の倉田研一氏の理髪制度に関する論考を3本掲載した。倉田氏はかつて美容師養成学校で教鞭をとっておられたが、その学校の歴史の研究を志し、最後にわたしの研究室に入ってこられた。技術教育や職業教育を研究している博士課程をもつ大学院の講座は名古屋大学と北海道大学にしか存在しなかったもので、そこにたどりつくまでは苦労されたようである。北海道大学には、新制大学が発足時、城戸幡太郎が初代学部長として、新しい構想（いわゆる城戸構想）に基づき、教育学部を組織したが、そのなかに「産業教育学講座」を位置づけた。ただ、そこでは労働問題研究が主として研究されてきたこともあり、職業教育研究という視点は弱かった。その点では、名古屋大学教育学部の技術教育学講座（現在は技術・職業教育学領域）はこの分野を研究する唯一の研究室であり続けたといえるかもしれない。倉田さんは自分の研究テーマを追求する場を見だし、研究に専念された。倉田さんには昨年10月から半年間、私の研究補助者（RA）として、わたしの研究室が所蔵していた女工場関係史料を整理していただいた。その史料は約25年前に坂本智恵子先生から本研究室に寄贈されたものであった。この度、より多くの方に閲覧してもらうことができるように、それを名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリー（GRL）に移管することにした。その史料の一部は、2021年5月11日から11月まで、名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリーの展示コーナーに展示されているので、閲覧していただければ幸いである。

<http://www.grl.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/archives/1511>

また、『GRL Studies』第3号の、横山・倉田「坂本清泉・智恵子先生蒐集の『女紅場』に関する資料の紹介と今後の研究の課題」という文章にも史料の目録が掲載されている。

<http://hdl.handle.net/2237/0002001186>

（横山悦生）